主体的・対話的で深い学びを実現する生徒の育成

~言語活動の充実を図る工夫を通して~

(3年計画の2年次)

校長名 佐々木 敏文

研究主題について

- 昨年度の研究の成果として、次のようなことが挙げられる。 ○授業でICT機器を活用することが生徒の興味を引く取組となり、学習内容の定着につなが
- ○グループ、ペアでの活動、教え合い活動など、学習形態の工夫を図ったことが主体的な学び につながってきている。
- ○調べ学習の場面を設定することで、深く学ぼうとする姿勢が見られるようになってきた。 ○振り返りの時間を設定することで、達成感をもたせたり自分の進歩に気付かせることができ

- 研究の課題として、次のようなことが挙げられる。
 ●振り返りの時間を設定したことは前述の成果を感じさせた。しかし、振り返りの方法の工夫や振り返りシートの改善、そして継続性をもたせていくことはこれからの課題である。
 ●視聴覚機器の一層の活用が課題である。タブレットを用いるなど、ICTの活用を主体的で
- 深い学びにつなげていきたい。
 ●言語活動充実のため、学習形態の工夫が必要である。じっくりと考えたり互いの意見を交換できる学習形態の工夫を行ったりしていきたい。それを、対話的な学びの高まりにつなげた

昨年度より設定してきた研究主題のもと、「主体的・対話的で深い学び」、「言語活動の充実」 を目指しての取組を実践してきた。成果も見いだせているが、各教科、領域とも一年間の取組

から、実践方法の改善や研究継続が必要であると認識している。 八戸市の学校教育指導の方針と重点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に一層迫っ ていくために、今年度も昨年度の研究主題を継続することとした。

2 研究のねらい

言語活動の充実を図りながら、「まとめ振り返る学習」、「協働して問題を解決する学習」を設 定し、その実践を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現することにつながることを明確にする。

研究仮説

問題の解き方や考え方を自分の言葉や専門用語を使って説明したり、まとめたりする力や、 ュニケーション力を高めるような言語活動を充実させることで、物事を多面的・多角的に捉え ることができ、深い学びにつなげることができる。

4 研究内容

- (1) 毎時間または単元ごとなど内容や時間のまとまりを見通しながら、学習したことをまとめたり振り返ったりすることで、次の学習につなげていく工夫をする。
- (2) 生徒同士の協働により、問題解決をする場面の設定の工夫をする。
- (3) 知識を相互に関連付けて、理解を深める課題設定の工夫をする。

研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要等
5	1 2	計画訪問(教育指導課・総合教育センター)
7	1	授業参観月間(7/1~21) ・「アイディア、流れ、まとめ及び振り返り、問題解決場面、課題設定、特別支援教育の視点、授業のねらいの明確化、学習の流れがわかる板書の工夫」を視点に、各教科部会で授業を互いに参観した。
1 0	4	授業参観月間(10/4~11/30)・7月と同じ観点で参観し合った。
1	7	授業参観月間をもとにした話し合い ・授業参観月間で提出された「授業参観シート」をもとに、各教科部会で参 考になった点や校内研主題に迫る取組について、協議と発表を行った。

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
4	2	校内研修 ・研究主題と研究計画について共通理解を図った。また、「観点別評価」と「学 習の手引き:学習の仕方」について確認や検討を各教科で行った。
4	5	校内研修 ・教科ごとの経営方針と年間計画について各教科で検討した。
5	2 6	校内研修(NRT分析、「研修主任連絡会」からの伝達) ・各教科からのNRT分析結果の発表、そして研修主任より「研修主任連絡会」 で指導主事より話された内容の伝達を行った。
7	1	指導課・総合教育センター要請訪問 (一般研修等支援) ・「1人1台端末の活用について」(オンライン) 講師 八戸市総合教育センター 主任指導主事 大下 洋一 先生
8	1 1	校内研修(令和3年度青森県教育課程地区研修会) ・教科ごとに分かれて、資料の読み合わせや検討、意見交換を行った。
8	1 8	ジョイントスクール合同研修会 ・「通常学級における支援が必要な子への理解と支援」 講師 青森県発達支援センター「Doors」 センター長 分枝 篤史 氏
9	1 5	校内研修 ・ジョイントスクールアンケート結果と考察の伝達
1	2 6	校内研修 ※新型ウィルス感染拡大防止のため延期(評価に関する講演)

研究の成果

- (1) 学び合いや話合い活動の場面を取り入れることで、自ら学ぶ姿勢を育成したり、自分の考え
- (1) 字の合いや話合い活動の場面を取り入れることで、自ら字ぶ姿勢を育成したり、自分の考えを深めさせることができた。
 (2) 振り返りの時間を設けることで、生徒の学習目標への到達状況を把握したり、また、生徒に自らの進歩や課題に気付かせることができた。
 (3) ジョイントスクールでは、小中3校で「学習課題設定」や「授業の流れがわかる板書」の工夫に取り組み、3校の共通事項である「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり」を多く実践することができた。

7 研究の課題

- ICT機器をペア・グループ活動に効果的に活用し、それを「深い学びを実現する生徒の ICT機器をペア・クルーノ伯野に対策的にはなり、 育成」につなげていきたい。 生徒が自ら課題を探究し、自分の言葉で表現する力を高める課題設定を工夫していきたい。 更に、生徒が自分の変容を感じられる振り返りや評価の在り方も探っていきたい。 コロナ禍の中、行事や特別活動の制限があり、絆づくりに向けて工夫が必要である。 (記入者 山田 勝司)
- (2)